

製品名: Bad Rabbit モノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21496**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:18kD;Observed MW:23kD

抗原情報

遺伝子名	BAD
別名	BAD;BBC6;BCL2L8;Bcl2 antagonist of cell death;BAD;Bcl-2-binding component 6;Bcl-2-like protein 8;Bcl2-L-8;Bcl-XL/Bcl-2-associated death promoter
遺伝子 ID	572.0
SwissProt ID	Q92934
免疫原	標的タンパク質に対応する合成ペプチド

背景

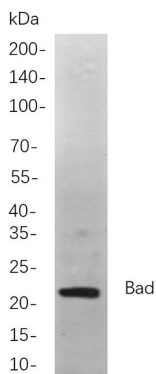
細胞局在: 細胞質。この遺伝子によってコードされるタンパク質は BCL-2 ファミリーのメンバーである。BCL-2 ファミリーのメン

バーは、プログラム細胞死の調節因子として知られている。このタンパク質は、BCL-xL および BCL-2 とヘテロ二量体を形成し、それらの細胞死抑制活性を逆転させることで、細胞アポトーシスを正に制御する。このタンパク質のアポトーシス促進活性は、リン酸化を介して制御される。タンパク質キナーゼである AKT および MAP キナーゼ、そしてタンパク質ホスファターゼであるカルシニューリンが、このタンパク質の制御に関与していることが明らかになっている。この遺伝子の選択的スプライシングにより、同じアイソフォームをコードする2つの転写バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2008年7月]

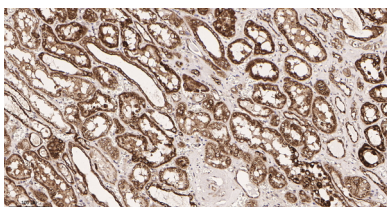
研究分野

-

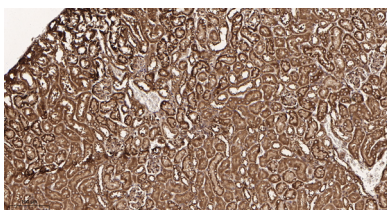
画像データ



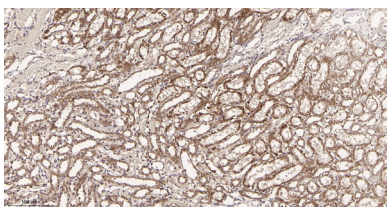
Hela 細胞ライセートの Bad Rabbit mAb を用いたウェスタンブロット解析。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を用いた。



パラフィン包埋ヒト腎臓組織の免疫組織化学分析。1. Bad Rabbit モノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20分)。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋マウス腎臓組織の免疫組織化学分析。1. Bad Rabbit モノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20分)。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ラット腎臓組織の免疫組織化学分析。1. Bad Rabbit モノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20分)。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。